

気候変動の影響に関するアンケートの結果概要について

昨年度、環境省が開催した気候変動に関するシンポジウム等（「気候変動の身近な影響と適応策を考える（仙台、京都、松山）」、「地球観測連携拠点(温暖化分野)ワークショップ(東京）」、「気候変動による影響と適応に関するシンポジウム(横浜)」)におけるアンケートや、インターネットによる Web アンケートの結果概要は以下の通り。

○回答者数

合計	仙台	東京	横浜	京都	松山	WEB
1,444	43	88	111	96	76	1,030
実施日	1/22(水)	12/2(月)	3/26(水)	11/29(金)	12/22(日)	2/26(水),27(木)

問1 気候変動の影響は、すでに現われていると思いますか？ あなたの考えに一番近いものを1つ選んで回答してください。

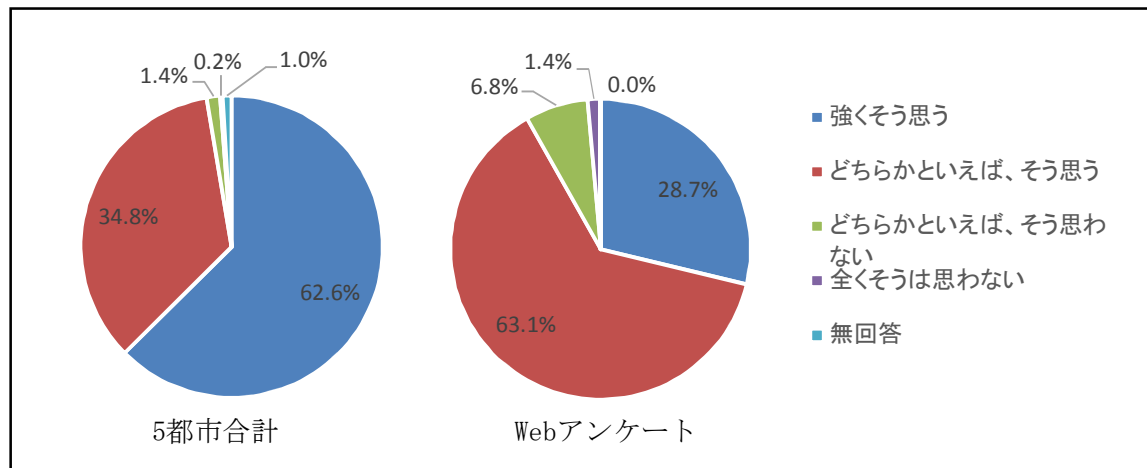


図 1-1 気候変動の影響はすでに現われていると思うか？
(左：5都市集計結果、右：Web アンケート集計結果)

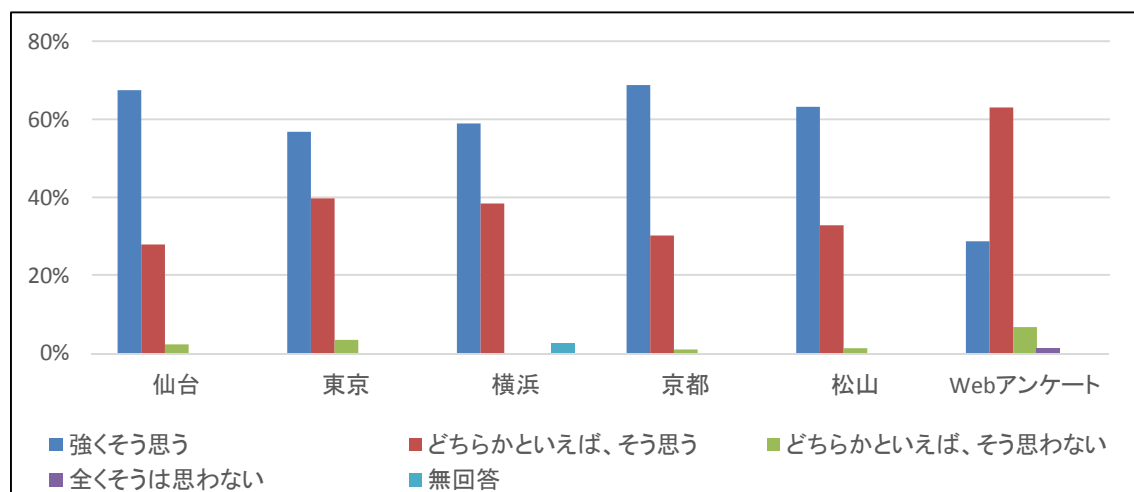


図 1-2 気候変動の影響はすでに現われていると思うか？（地域別）

問2 問1で「強く思う」または「どちらかといえば思う」と回答した方は、どのような事象から気候変動の影響が現われていると思われましたか？（複数回答可・自由記述あり）
 ※Web アンケートの回答項目に「極端現象・異常気象」の項目は含まれていない。

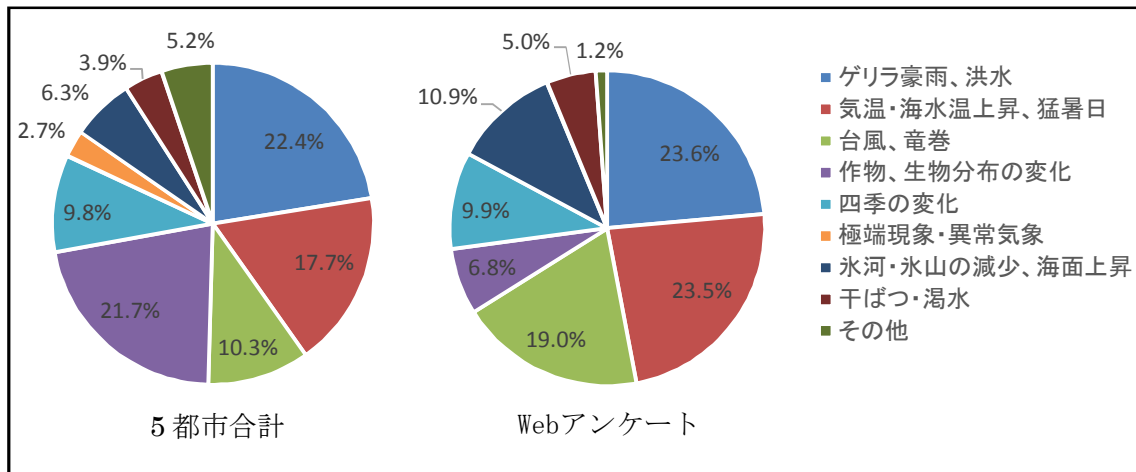


図 2-1 どのような事象から気候変動の影響が現われていると思うか？
 (左：5都市集計結果、右：Web アンケート集計結果)

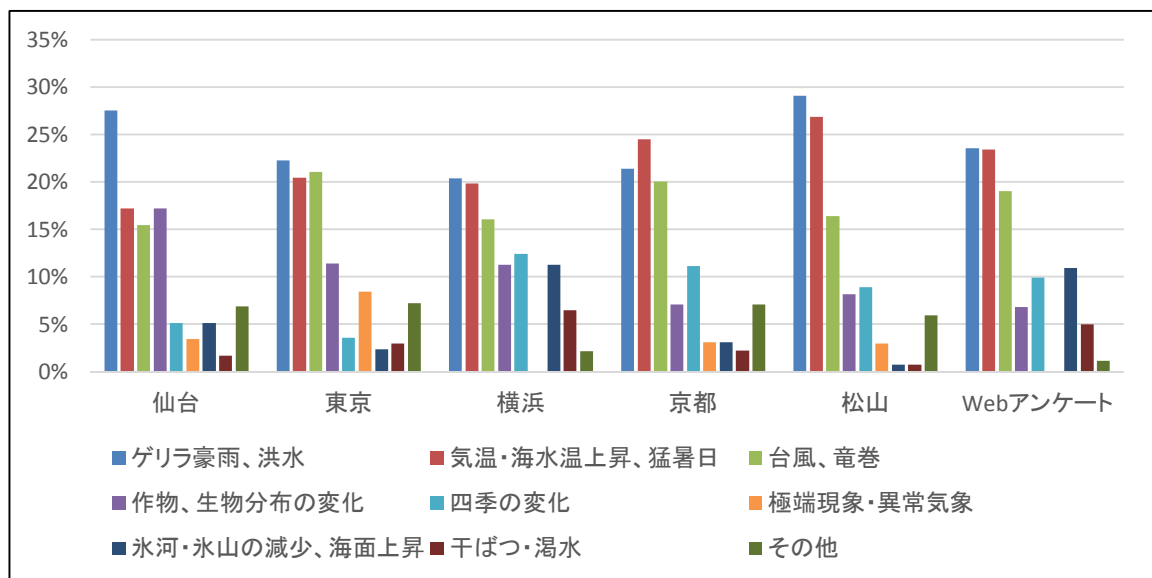


図 2-2 どのような事象から気候変動の影響が現われていると思うか？（地域別）

自由記述の内容を詳細に見ると、全般的には、大型台風やゲリラ豪雨、竜巻、猛暑日などの増加に気候変動の影響が現われていると感じるとの回答が多い。また、「これまでに経験したことのない例が多い」（70代等）など「想定外」「記録的」な現象の多さを指摘する記述がみられた。一方、「四季が感じられない」「春・秋が短くなっている」「昔ほど雪が降らない」「氷の張る日がほとんどなくなった」等、季節感の喪失や冬季の降雪・結氷の減少を指摘する回答も多くみられた。

この他、農作物の産地や獲れる魚種の変化、身近な生物（クマゼミ、庭のみかん等）の生育・生息地の変化等を挙げる記述もみられた。

問 3 気候変動の影響への対応策を検討するにあたり、どのようなことに重点的に取り組むべきだと思いますか。重要だと思うことを3つまで選んで回答してください。

※本設問の回答には横浜地区シンポジウム及び Web アンケートの結果は含まれていない

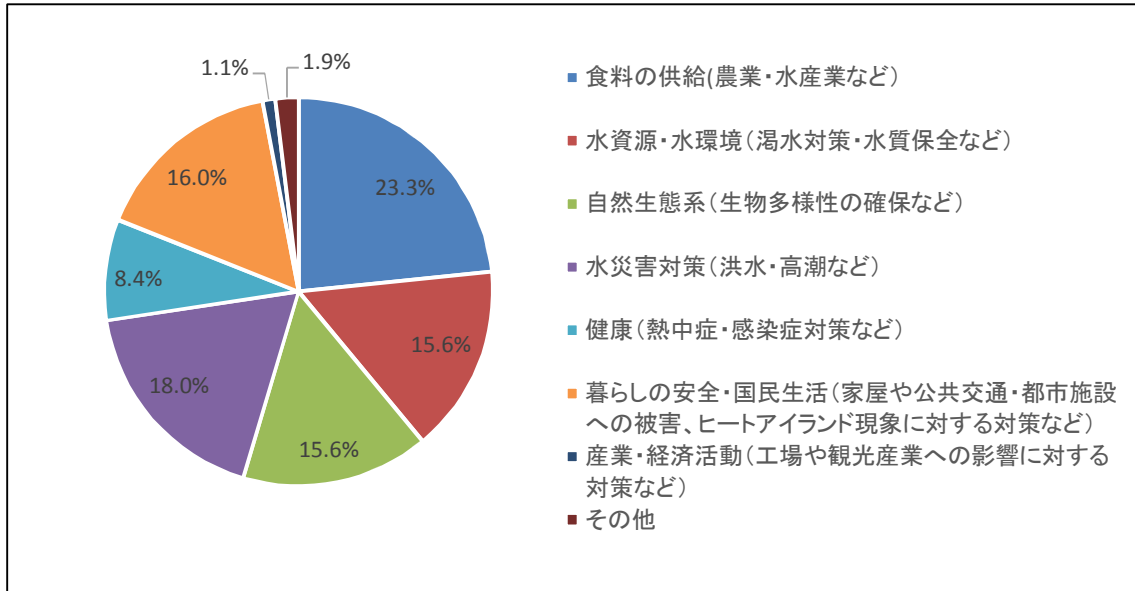


図 3-1 どのようなことに重点的に取り組むべきだと思いますか？（全体）

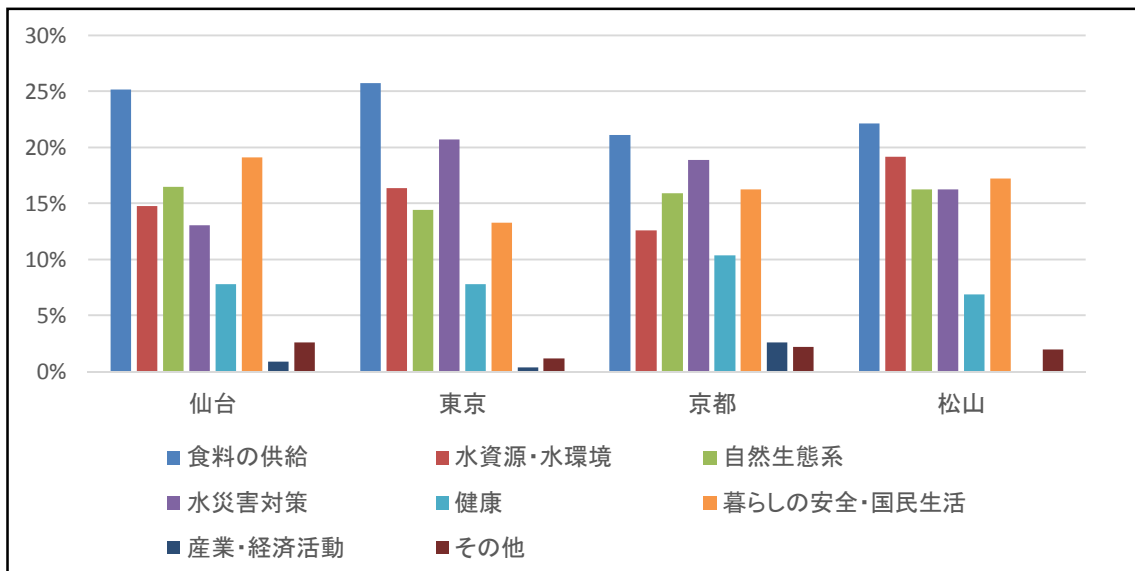


図 3-2 どのようなことに重点的に取り組むべきだと思いますか？（地域別）

問 4 将来、気候変動の影響を受けるのではないかと気になることはありますか？キーワードを参考に気になることについて、自由に記載してください。

※Web アンケート結果は自由記述のみのため、本設問のグラフには含めていない

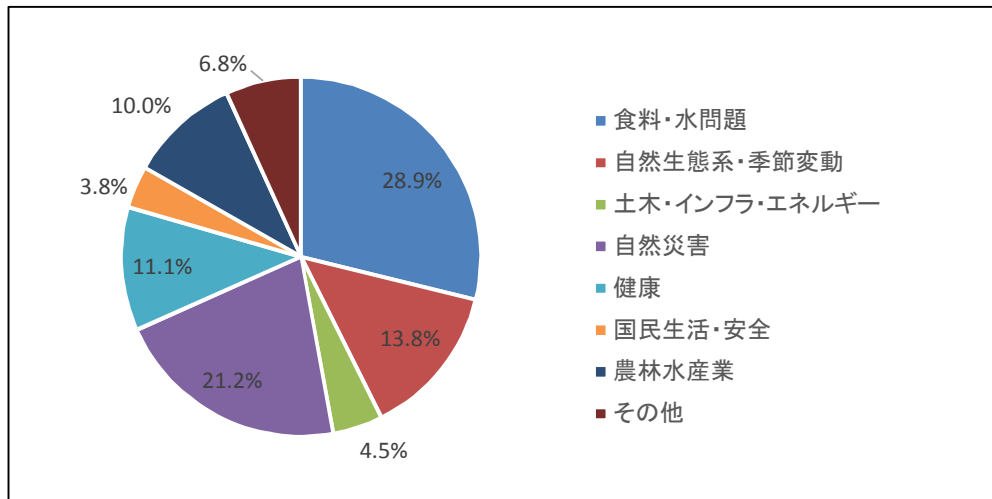


図 4-1 将来、気候変動の影響を受けるのではないかと気になることはあるか？（全体）

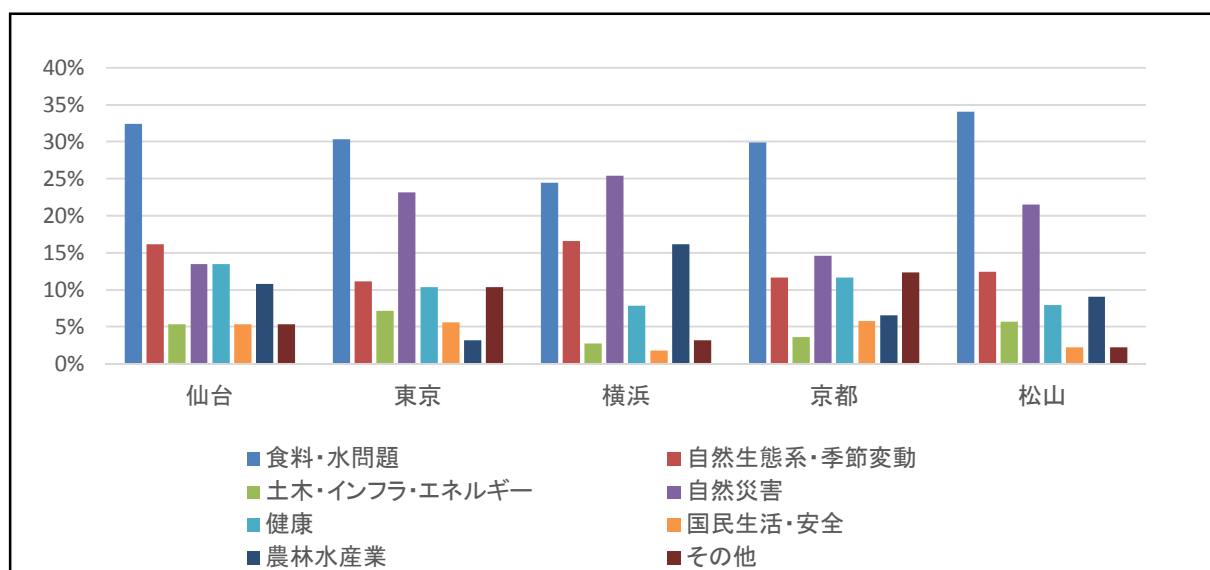


図 4-2 将来、気候変動の影響を受けるのではないかと気になることはあるか？（地域別）

自由記述の内容を詳細に見ると、全般的には、水災害の増加、国内での農業生産・水産資源への影響と世界全体での食料生産への影響を含む食料供給への悪影響、従来にはなかった感染症等による健康被害の増加（特に高齢者への大きな影響）、自然生態系の変化・生物多様性の減少、水資源の不足等を挙げる回答が多い。特に影響の内容の具体的な記述があったもの、複数分野に関わる影響を指摘したものなどの主な例を以下に示す。

(食料)

- ・ 海外への食料依存度の高さにより、様々な食料不足等の間接的影響が生じるのではないかと。
- ・ 夏の高温、冬の最低気温上昇、海水温上昇で、日本の一次産業のあり方が大きく変わる。
- ・ 農業の栽培適地の変化に適応が可能な地域とそうでない地域での経済格差の発生。
- ・ 農業・水産業の生産業界がすぐ適応できるか。農業・水産業者への生活支援が行えるか。
- ・ 農作物の作期・品目の変更による水利用システムの変化。
- ・ 安全でおいしいといわれる国産作物の消滅が考えられる
- ・ 食料安定供給が脅かされ価格上昇が懸念される。乳牛や卵の生産低下による価格高騰等。

(水資源)

- ・ 水資源の不足（飲料水の不足、農作物生産への影響）。

(自然生態系)

- ・ 生態系の劣化、外来種の侵入・増加
- ・ 短時間強雨による河川での生物の流出。
- ・ 日本特有の生態系の破壊。将来の子供に日本の自然を残せないのではないかと。
- ・ 自然生態系に影響が生じれば、全てに影響が及ぶ。

(自然災害・沿岸域)

- ・ 人口の減った山村で（対策が進まず）気象災害の被害が増加する。
- ・ 従来の災害に加えた複合影響が生じるのではないかと。
- ・ ゲリラ豪雨や雷雨による交通機関への不安。
- ・ ゲリラ豪雨により、思いがけないところで洪水・土砂災害が発生するのではないかと。
- ・ ゲリラ豪雨の頻発に対処するための施設の新設・大規模改修とそのための予算の抛出。
- ・ 海面上昇による被害拡大。弱者に対する被害の集中。
- ・ 本来、住宅建設に適さない山・竹林などへの住宅地開発が進んでおり、台風時の被害が心配。住宅地に使えない土地の増加。
- ・ （食料、水環境・水資源、自然生態系、自然災害・沿岸域の各分野への影響）などの現象と地震があわさると日本は災害大国になる。被害想定をするべき。

(健康)

- ・ これまでになかった南方系の疾病による健康被害の増加。
- ・ 特に高齢者層の健康悪化（過疎地のインフラ・行政の不足等）。
- ・ 猛暑の高齢者への影響が大きい。
- ・ 体力低下、今までにない病気の発生等により、健康を害する人が増え、社会全体が成り立たなくなることへの不安。

(産業・経済活動)

- ・ 都市部の交通の日々の遅延が問題となる。（乗客の体調不良）
- ・ 交通網の寸断、サプライチェーンの寸断。
- ・ 自然災害による経済活動の低下、産業の停滞。
- ・ 温暖化→（空調などの）電力需要の増加→温暖化という悪いサイクルが加速される。
- ・ 空調のエネルギー増加は、住宅・自動車・鉄道等に及ぶ。
- ・ 冷房使用による電力料金の増加。

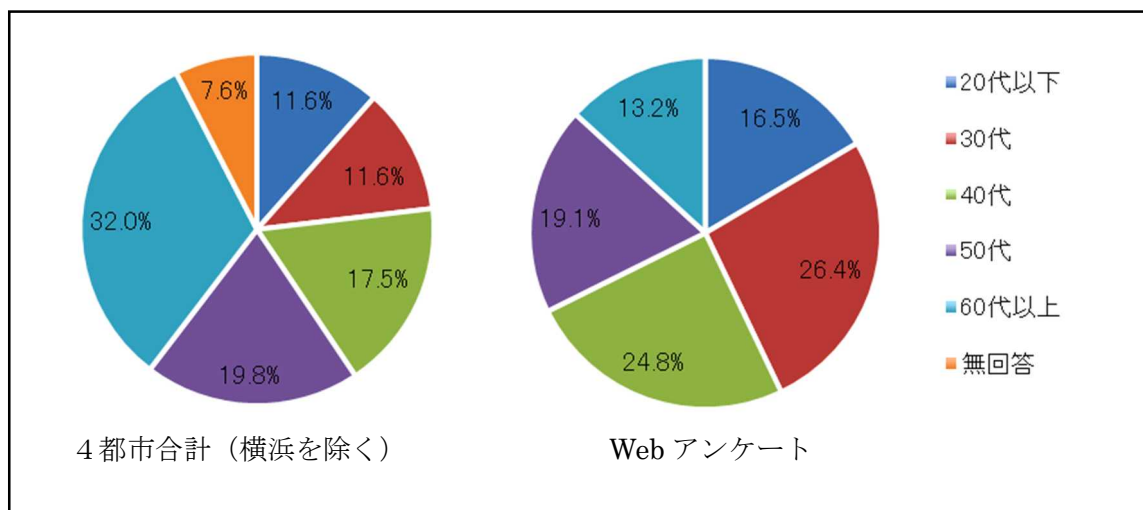
(都市生活・国民生活)

- ・ 自然生態系が破壊されることにより日本の伝統・文化の基盤が崩壊する。
- ・ 亜熱帯化し、日本固有の四季や風土が次第になくなるのではないか。
- ・ 四季に関する感性のずれが生じるのではないか。
- ・ 日本から四季が失われてしまうのではないか。
- ・ 「都市生活」だけでなく地方の生活への影響も大きい。
- ・ 東北、北海道が住みやすくなる。
- ・ 食料・水・資源を求める、それらの乏しい国と豊かな国との衝突の増加。

なお、地域による記述内容の大きな差異は特に見られなかったが、松山では、水不足・渇水の具体的な影響（飲料水の不足、農作物生産への影響等）を挙げる意見がみられた。

(参考) アンケート回答者の属性

1. 年齢層



2. 性別

